

IV-243 日独地方都市の評価イメージの比較

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一
 栃木県 正会員 ○寺内 修一

1、はじめに

都市の評価イメージの比較に際しては、市民（人間集団）を通しての比較でなければならない。本研究は、このような観点にたつて、日独都市の評価イメージの国際比較を行い、日本の都市の個性を浮き彫りにすることを目的としたものである。比較都市の選定に当たっては、かつて風土と文化の点で際だった特性を発揮し現在もその面影をとどめている都市の間の比較が望まれよう。ここでは、日本の城下町起源の都市盛岡¹⁾と北欧中世起源の都市西ドイツ、ダルムシュタットを取りあげ比較している。

2、調査の方法

調査の内容は、表-1に示すとおりであり「大切にしたい景観」と「改善したい景観」の2つの点について調査したものである。調査の方法は、イメージ再生法のひとつである言語記述留置法によった。被験者の個人属性は、表-2に示すとおりである。

3、解析結果および考察

(1) 大切にしたい景観の比較

好きな「ところ」または「景色」としてイメージ再生された要素の数は盛岡685個、ダルムシュタット228個であった。これらのイメージ再生百分率を縦軸に、再生順位を横軸にとり、大きい順に示すと図-1のような対数曲線に近いグラフを描き、共通にイメージされる要素は少数要素に集中する。そこで図-1に示されるパーソナル・エレメントを除いたセミ・パブリック・エレメント以上をその特性上注目することにし、その要素を「ところ」と「景色」に分類してグラフ化すると、図-2（「ところ」）、図-3（「景色」）のようになる。「ところ」としてイメージ再生されたダルムシュタットのイメージ再生百分率、イメージ再生要素数は、盛岡での値を上回る結果となった。このことは、西ドイツの地方都市における集住と日本の地方都市における疎定住という居住形態の相違によるものと推察される。また、逆に図-3に示されるように「景色」としてイメージ再生された要素は、イメージ再生百分率、イメージ再生要素数ともに盛岡の値がダルムシュタットの値を上回っている。このことは、盛岡が歳風特水の典型であり起伏のはげしい変化に富んだ地形からなっていることと、ダルムシュタットの市域が、東から西方向にかけてゆるやかな傾斜をなしているものの、起伏はみられず平坦地（platten land）となっていることのためであると考えられる。イメージ再生された要素に注目して人文的要素と自然的要素に大別すると人文的要素の構成比率は、ダルムシュタットが盛岡より多くを占めていることがわかる（図-4）。このことは、ダルムシュタットでは、多くの広場を中心としたコンパクトなまちづくりが進められているためであり、一方、盛岡では、街全体が風景の中にとけ込むようなまちづくりこそ好ましいとされているまちづくりが推進されているためである。

(2) 大切にしたい景観の変化に対する評価の比較
 前項でイメージ再生された景観の中で最近10年

表-1 調査の内容

- I、大切にしたい景観について
 Q1、**市(町)および市(町)周辺で好きな「ところ」または好きな「景色」(く(場所)からみた(対象))は何ですか。思い浮かぶままに出来るだけたくさん具体的に書いて下さい。
 Q2、Q1で書いたものの中で、最近10年ぐらいの間に景観的に見て、悪くなったと思わるものはどれですか。その番号を思いつく順序にすべて記入して下さい。
 Q3、Q1で書いたものの中で、最近10年ぐらいの間に景観的に見て、良くなったと思わるもの(新しく生み出された景観を含む)はどれですか。その番号を思いつく順序にすべて記入して下さい。
 Q4、Q1で書いたものの中で、これまでほとんど変化していないと思わるものはどれですか。その番号を思いつく順序にすべて記入して下さい。
- II、改善したい景観について
 Q1、**市(町)および市(町)周辺で改善したい「ところ」、または改善したい「景色」(く(場所)からみた(対象))は何ですか。思い浮かぶままに出来るだけたくさん具体的に書いて下さい。
- III、その他、**市(町)の景観についてご意見等がございましたら、ご自由にお書き下さい。

表-2 回答者の個人属性

	盛岡市	ダルムシュタット
性別		
男	332	42
女	273	43
合計	605	85
在住年数		
20年未満	265	38
20年以上	340	49

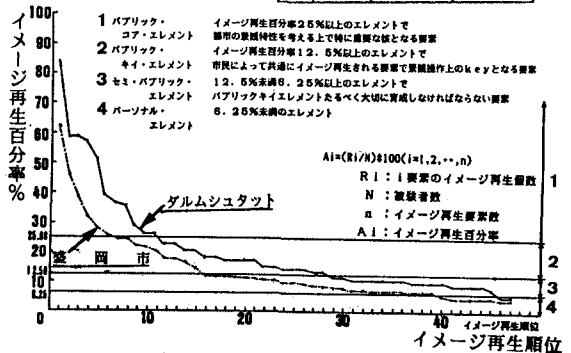


図-1 大切にしたい景観のイメージ再生百分率とその順位の比較

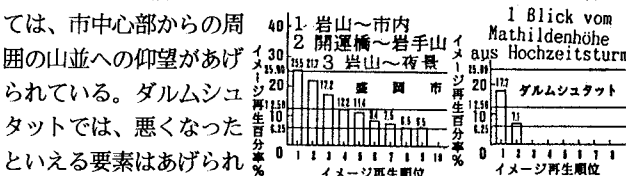
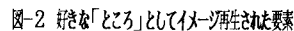
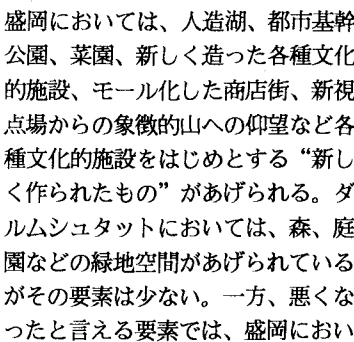


図-3 好きな「景色」としてイメージ再生された要素

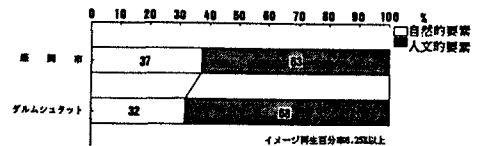


図-4 自然的要素と人文的要素の構成比

ていない。変わらないと 図-3 好きな「景色」としてイメージ生かした懸
言える要素では、盛岡において、神社仏閣等歴史性のあるものがあげられ、ダルムシュタットにおいては、小丘、庭園などの緑空間、教会城跡などの歴史性のあるものがあげられている。

改善したい「ところ」としてイメージ再生された要素をグラフ化すると図-5のように示される。イメージ再生された要素は、ここでもダルムシュタットがイメージ再生百分率、イメージ再生要素数において盛岡の値を上回る。ダルムシュタット、盛岡において駅舎および周辺が改善したい「ところ」として共通にイメージ再生されており都市基盤施設である駅舎周辺の整備が求められている。ダルムシュタットにおいては、広場がイメージ再生されており、盛岡においては、街路がイメージ再生されている。ここにおいても、集住と疎定住という居住形態の相違が本質的に関係していると思われる。なお、改善したい「景色」としてイメージ再生された要素はなかった。

ドイツの地方都市と日本の地方都市について「大切にしたい景観」と「改善したい景観」について比較分析してきたが、「大切にしたい景観」、「改善したい景観」ともかなり違うということがわかった。今後、これらの分析結果をもとに日本の地方都市の個性の育成策を考えていきたい。

【参考文献】安藤昭、五十嵐日出夫、赤谷隆一：都市化の展開と都市景観イメージの解析、地域学研究、VOL18、日本地域学会

		庭 園 名	ゲルムシユラット
良く な育 つた と 樹 木	Q3>Q2 Q3>Q4	源所芋山 成立博物館 成立博物館 成立図書館 観覧ダム 尾崎 有町	Vivarium (Fasanerie) Padagoe
↑ ↑ ↑	Q3>Q2 Q4>Q2 ↑	中央公園 通都公園 樹木美術館 小宮井農場	Orangeriegarten
寒 れ ら 育 つ た と 樹 木	Q4>Q2 Q4>Q3	大庭寺 相阿弥浄水場 碧手山 観音寺	Nethlidenhohe Schloss Kramers Herrengarten Prinz Georgs Garten Prinz Emil Garten Ludwigische Pauline Kirche
↑ ↑ ↑	Q2>Q3 Q4>Q3	碧手公園 八幡宮 北山 (寺院)	Herrengarten
悪く な育 つた と 樹 木	Q2>Q3 Q2>Q4	碧手公園	

Q2: 最近十年間で悪くなったといえる要素
Q3: 最近十年間で良くなったといえる要素
Q4: 最近十年間で変わっていないといえる要素

比率の差の検定(危険率5%)

 好きなところ > 改善したいところ
 好きなところ > < 改善したいところ
 好きなところ < 改善したいところ

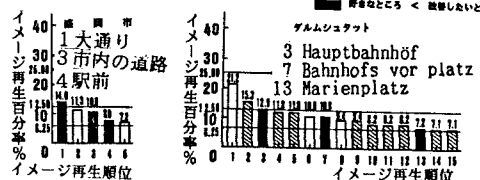


図-5 改善したい「ところ」としてイメージ再生された要素